

(3) 考 察

樹高成長の関係では、全体的にみて、現時点ではあまり施肥効果は認められず、また施肥量間、施肥回数間にも顕著な差は認められない。従って今後の成長を観察した上で検討を加えなければ結論はでない。

胸高直径成長の関係では、無施肥区に比較して施肥の効果は、樹高成長より明らかに肥効が認められる。P-40g/本を2回施肥した場合とP-40g/本を1回施肥した場合は同じような肥効であり、現段階では、2回分施の必要はないように考えられる。また、施肥量についてみるとB1回施肥区とB2回施肥区の間には顕著な差はみられ

ず、モリシマアカシヤに対する追肥の量はP-80g/本が限界量のようにあるがさらに今後の観察が必要である。

材積成長の関係では、P-40g/本を2回施肥するよりもP-80g/本の1回施肥で充分と思はれる。

間伐と無間伐の関係は、現段階ではその成長差は明確に認められないが、樹高成長において無間伐区が僅かにまさり、胸高直径、材積成長においては、間伐区が僅かながらよくなっている。

その他樹冠疎密度、葉分析、土壌分析の面からも、間伐と肥効の考察を加ゆるべきであるが第Ⅱ報以降に報告する計画である。

38. ヒノキ挿木事業化試験について

出水営林署 永 吉 清 光

昨年度長崎市での本会発表会に於て、ヒノキ挿木試験について述べましたが、今回は主として事業化試験結果につき述べてみたいと思ひます。

39年度の実用化試験(第2表)によると1年間の平均苗長34cm山出歩止り74%の好成績を得たので直ちに事業化に踏切った、(第6表)事業化の功程表諸経費表は第6表イ、ロ、の通りであり、1年後の10月調査の結果第表の通りで期待するものがあつた。

尚さし木苗は山出後の生長が良い、悪いの、両論がある様ですが、私の実行では何等変りないようである従来実施された山穂よりの大挿木は若干生長が悪かつたが、若苗からの小枝挿を41年2月山出(5,000本)したヶ所の夏期生長を測定したが実生苗18(10-24)挿木苗17(6-30)で何等変りないが横えの持張が若干劣る点はあるが、これは密挿の関係もあるかも知れない。

(第7表) ひのき挿木各月試験結果表

年 月	実行本数	活着%	山出%	据置%	平均苗長	幹 重	根 重	TR率	備 考
38 9	100	70	63	7	50	54	14	3.86	40年1月堀取調査
10	〃	97	88	9	52	40	12	3.33	
11	〃	93	86	7	48	32	12	2.67	
12	〃	72	68	4					
39 1	〃	94	70	24					41年1月堀取調査
2	〃	99	78	21					
3	〃	93	70	23					
4	〃	92	74	18					
5	〃	89	74	15					
6	〃	80	75	5					
7	〃	12	9	3					
8	〃	76	60	16					
9	〃	77	68	9					

10	〃	98	77	21								
11	〃	84	56	28	63							
12	〃	59	58	1	50~92	60	23	2.60				
40	1	〃	72	64	8	47						
	2	〃	90	81	9	44~80	110	35	3.14			
	3	〃	100	93	7	53						
	4	〃	70	69	1	47~71	45	22	2.05			
	5	〃	70	70	—	60						
	6	〃	51	51	1	36~90	75	20	3.75	41.10.20日調査		
	7	〃	0	0	0	64						
	8	〃	79	47	32	37~92	99	22	4.50			
41	1	〃	96	91	5	63						
	2	〃	92	92	0	43~85	111	18	6.17			
	3	〃	97	91	6	62						
	4	〃	100	87	13	47~79	116	23	5.04			
	5	〃	82	51	31	59						
	6	〃	90	60	30	42~71	126	34	3.71			
	7	〃	29	0	29	—						
	8	〃	74	24	50	33						
	9	〃	70	—	70	18~53	29	16	1.81	山穂挿付		
	10	〃	不明			46						
40.10.8	1	〃	90	60	30	31~74	42	20	2.10			
	2	〃	74	24	50	59						
	3	〃	70	—	70	36~69	59	20	2.95			
	4	〃	79			38						
	5	〃	46			35~64	35	14	2.50			
	6	〃	30			36						
	7	〃	1			18~53	36	7	5.29			
	8	〃	11			28						
9	〃	80			20~47	20	7	2.86				
10	〃	不明			27							
40.10.8	〃	80	70	10	17~40	14	4	3.50				
					20							
					13~25	8	4	2.00	山穂挿付			
					25							
					19~38	14	5	2.80				
					23							
					16~29	21	7	3.00				
					20							
					17~24							
					15							
					12~21							
					30							
					20~50	38	8	4.75	山引苗			

(第8表) ひのき挿木事業化試験結果表 (40年10月実施) 41年10月調査

年月日	挿付方法	数量		活着		山出		据置		平均	平均	平均	TR	備考
		本数	%	本数	%	本数	%	本数	%	苗長	幹重	根重		
40.10.2	普通床挿	16.000	14.857	93	14.109	88	748	5	44.5	26.9	5.3	5.0		列間10cm株間7cm13本床挿
40.10.5	普通条挿	5.900	5.250	89	5.021	85	229	4	45.8	25.2	5.8	4.34		株間7cm2条間10cm列間30cm
	計	21.900	20.107	92	19.130	87	977	5	45.2	26.1	5.6	4.67		
10.2 40~4	ねり床挿	22.500	11.620	51	10.572	45	1.348	6	37.2	25.7	5.3	4.84		ねり挿普通挿と同じ
	ねり条挿	5.900	4.120	70	3.314	66	206	4	42.0	24.6	5.5	4.47		〃
	ねり挿計	28.400	15.640	55	14.086	50	1.554	5	39.6	35.2	5.4	4.66		
	合計	50.300	35.747	71	33.216	66	2.531	5	42.40	25.5	5.5	4.67		
	本数管理 (熊本局)	50.300	35.600	71	33.300	66	2.300	5	40.5	31.8	5.3	6.00		熊本管林局本数管理規定に 基づく9月末調査の結果

1. 別表 8 表の通り活着歩止は、普通挿92%ねり挿は71%で山出歩止に於ても普通87%ねり50%の結果となった。

スギ挿木では当苗畑成積はねり挿95%普通挿は75%以下である、ヒノキに於てもスギと同様の結果を確信して事業化に踏切ったのであるが意外な結果に驚いた。

この結果を考えると、ヒノキシ小枝挿の場合水分が多いと樹皮が腐って発根が悪く、枯損が多い事が判明した。

特に挿付当時灌水したところ、降雨時水溜を生じたところは発根不良で枯死たところが多かつた、又穂木を浸水したとき、転んで水中に葉とも

に浸水したものは、枯損が甚だしい。

2. スギさし木と異なり挿付後1ヶ月位で発根し毛苗の床替苗と同じく4—5倍に伸びねば1年山出し出来ないので、思切つて施肥する事が必要である。
3. 2条挿では小型ホイルトイブトラクター床植えでは、中型ホイルトラクターで、簡単に掘取る事が出来る。
4. 41年度は全部2条普通挿で10万本10月始め実行済である。

功程その他は40年度事業化試験と同じで、挿付苗の3%以下で生産出来る事は確実である。